

＞ 島根県における高校魅力化とは

生徒一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むことを目指した、地域社会との協働による魅力ある高校づくりのことであります。

これは、「社会に開かれた教育課程」の実現を通して、資質・能力の三つの柱の育成を目指す、新学習指導要領と同じ方向性を持つものです。

＞ 誰にとっての魅力なのか

ここでいう魅力とは、なにより、生徒たちにとっての魅力です。

また、その生徒たちの保護者、教職員、そして生徒や学校を支える地域社会の人々にとっても魅力ある高校づくりを島根県は目指します。

＞ 高校魅力化の目的とは

生徒一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むことです。

また、それを通して、子供を含む若い世代が、この地域で「学びたい」「生きたい」「子供を育てたい」と思う、魅力ある地域づくりを推進していくことです。

＞ 島根らしい高校魅力化とは

- ①豊かな自然、歴史・伝統、文化といった地域それぞれの魅力や教育資源（ひと・もの・こと）を生かす、地域社会に開かれた高校づくりです。
- ②少人数ならではのメリットを生かし、生徒一人一人の魅力や個性を伸ばし、自己実現を支援する、主体性と多様性を尊重する高校づくりです。
- ③温かな人のつながりや勤勉で粘り強い県民性を生かし、生徒も大人も共に学び続ける、対話的・探究的な高校づくりです。

＞ 高校魅力化において大切なこと

魅力ある高校づくりの具体的な取り組みに、定まった答えはなく、生徒・保護者、教職員、地域住民等との主体的な対話を通して、各高校・地域の特色に応じて取り組まれていくものです。

そのため、学校に関わる我々大人たち自身も、子供たちと地域や社会の未来を見据えて、主体的・対話的に深く学び続ける姿勢であることが重要です。

島根県が目指す魅力ある高校づくりとは…

県立高校 魅力化ビジョン

平成31年2月

島根県教育委員会

策定に当たって

島根県の中学校卒業生数

- ▶ 1989年（平成元年3月）：約12,600人
 - ▶ 2018年（平成30年3月）：約 6,200人
- 今後10年間の減少ペースは緩やかになると見込まれる。

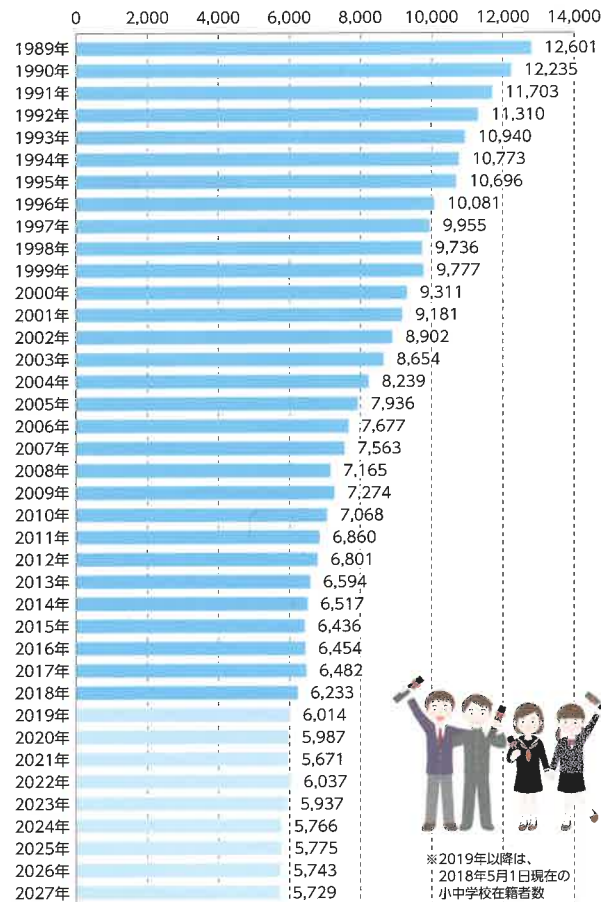
国の動き

- 高大接続改革実行プラン
（高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革）
- 学習指導要領の改訂
（新しい時代に必要となる資質・能力の育成）

など

2020年代の県立高校における教育の基本的な方向性と具体的な取組を示した「**県立高校魅力化ビジョン**」を策定
（向こう10年間の「方向性」と前半5年間の「具体的な取組」）

中学校卒業生数の推移（各学年3月卒業生数）



県立高校魅力化ビジョンの概要

第1章

「生きる力」を育む 魅力ある高校と 地域づくりの推進

地域に根ざした小さな高校が魅けた大きな教育効果を全県に広げ、全国に誇れる島根らしい魅力ある高校づくりを進める

- 1 地域協働スクールの実現
- 2 地域資源を活用した特色ある教育課程の構築
- 3 多様な学びの保障
- 4 「学びの成果」の捉え方・示し方の開発と、学校評価の改善
- 5 「しまね留学」の推進

第2章

生徒自らが選び、学び、 夢を叶える 高校づくりの推進

主体的な学習を促し、個性・適性・志向性に応じた多様な学びを生徒一人一人が追求できる、魅力ある高校づくりを進める

- 1 「求める生徒像」の確立と入学者選抜方法の改善
- 2 特色ある学科・コースの設置による、主体的な学びの推進
- 3 生徒の主体性が発揮される高校づくりの推進
- 4 学びのセーフティネットの構築
- 5 インクルーシブ教育システムの推進
- 6 ICTを活用した授業改善の推進

策定の方針

新学習指導要領（2022年度実施）

- ① 育成を目指す資質・能力
「知識・技能」
「思考力・判断力・表現力等」
「学びに向かう力、人間性等」
- ② 「社会に開かれた教育課程」を実施することにより、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を、学校と社会が共有しながら連携・協働して実現

島根県が目指す「教育の魅力化」

島根の子供たち一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育むため、学校と地域社会がその目標を共有し、協働を図りながら、島根の教育をよりよいものに高めていく

- 全ての高校において、地域社会とともに魅力ある高校づくりを推進
- 生徒の個性や適性に応じた多様な学びを追求できる体制や、望ましい教育環境を整備

第3章

将来を見通した 教育環境の整備

将来を見通した各高校・指導の在り方の実現に向けた環境整備を推進する

- 1 地域別の高校の在り方
- 2 教員の働き方改革、教員の確保と育成

〈参考〉県立高校の配置状況



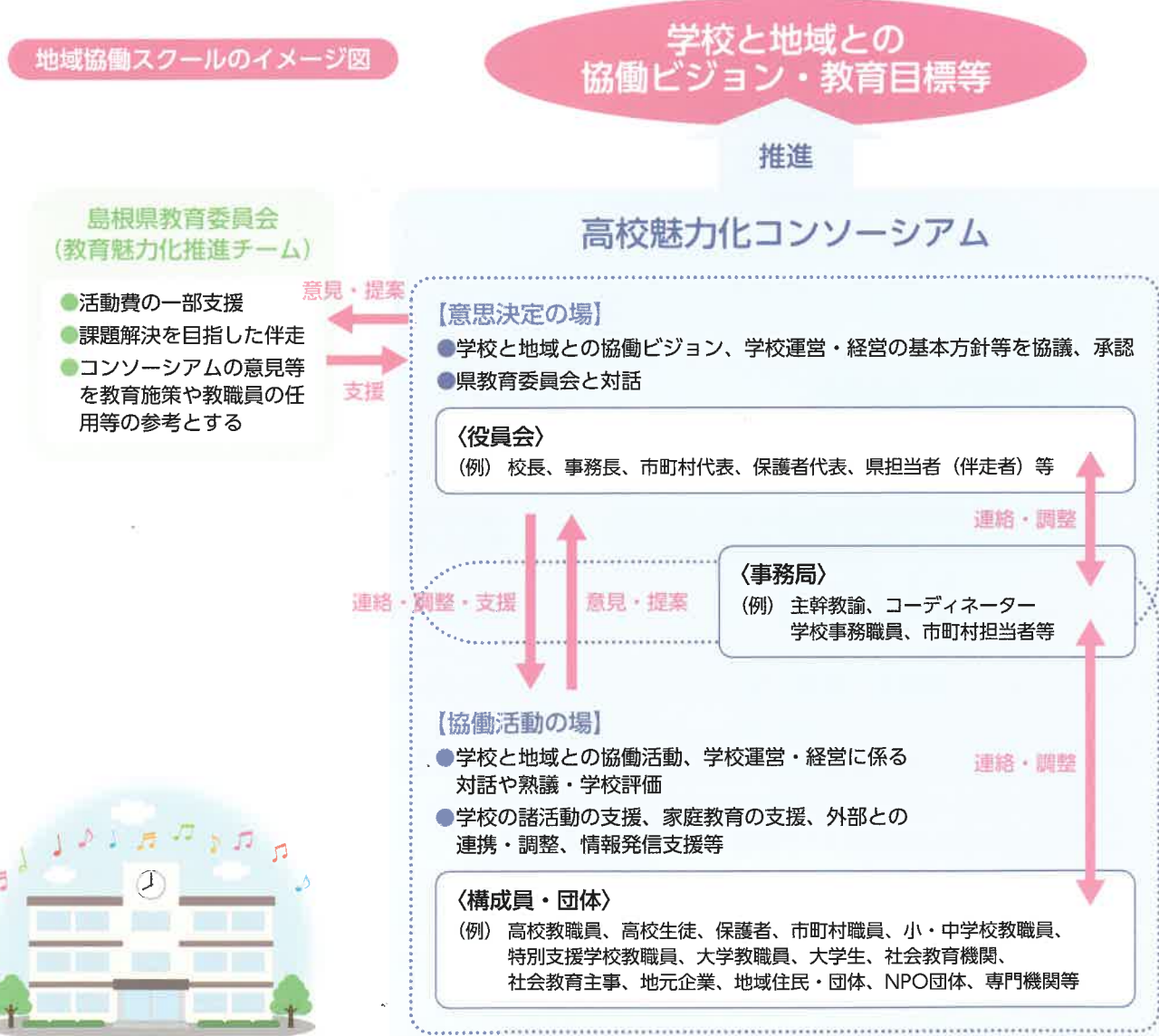
「生きる力」を育む魅力ある高校と地域づくりの推進

—— 地域に根ざした小さな高校が魅けた大きな教育効果を全県に広げ、
全国に誇れる島根らしい魅力ある高校づくりを進める ——

1 地域協働スクールの実現

- 地域と協働しながら「目指す学校像」、「育てたい生徒像」、特色ある教育課程及び「求める生徒像」等を明確化
- 教職員、生徒・保護者、市町村、小・中学校、大学、社会教育機関、地元企業、地域住民、関係団体等が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制（高校魅力化コンソーシアム）を、全ての高校において構築・推進

- 高校魅力化推進協議会等、既存の連携組織を活用
- 総合調整を担う職員の配置を検討
- 高校事務室の体制充実
- 教育魅力化推進チームの体制充実・機能強化
- 魅力と特色ある教育活動を応援する寄附制度等を検討



※上図は1高校1コンソーシアムの例であり、市部においては複数の高校で1コンソーシアムの場合も想定される。

2 地域資源を活用した特色ある教育課程の構築

- 全ての高校において地域課題解決型学習を実施
- 県教育委員会による島根大学、島根県立大学、経済団体等と連携・協働した地域課題解決型学習の支援
- 教育魅力化コーディネーターの養成・確保・育成
- 「主体的・対話的で深い学び」や地域資源を活用した教育課程の実現に向けた、教職員の意識向上や資質・能力の育成、学校体制の構築の推進

教職員、コーディネーター、市町村職員等の組織を超えた関係づくり
全ての高校への主幹教諭の配置を目指す

3 多様な学びの保障

- 生徒の希望する進路に応じた資質・能力等を育むための取組
- 未開設教科・科目の解消に向けた教員加配の継続・拡充
- ICT機器やネットワークを活用した同時双方向型遠隔教育の導入研究
- 県内外の高校間の交流や単位互換及び留学制度等の研究
- 地域の幅広い人材の協力による課外における学びの場の工夫、部活動の活性化



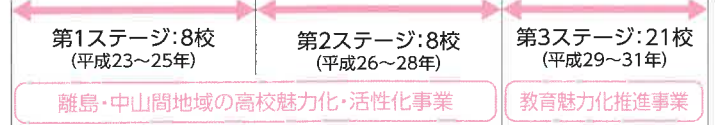
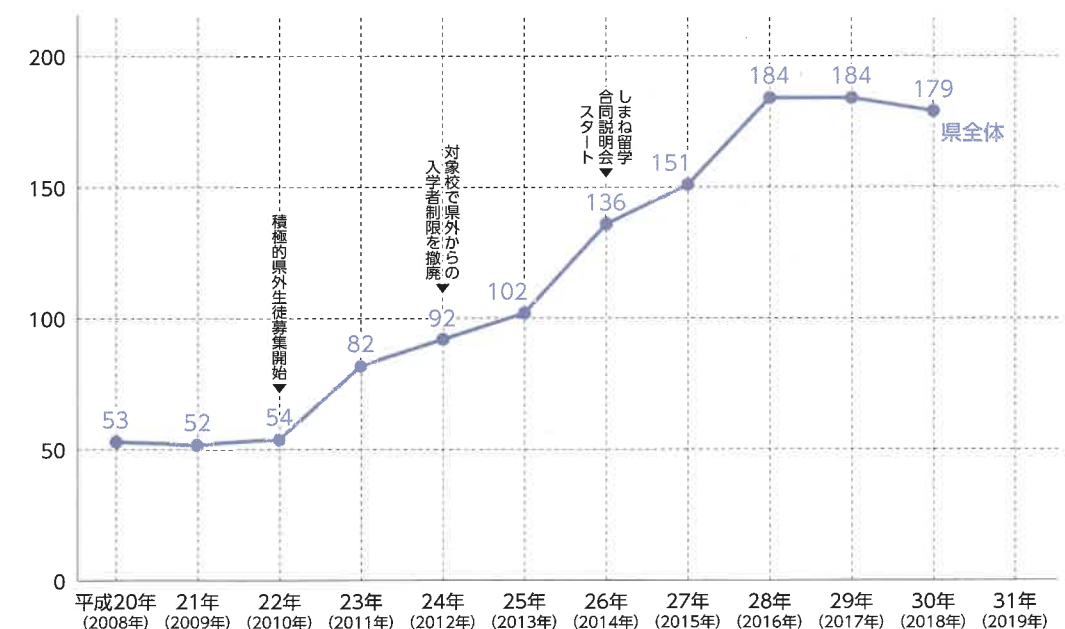
4 「学びの成果」の捉え方・示し方の開発と、学校評価の改善

- 狭義の学力のみにとどまらない幅広い資質・能力の評価方法を研究 (キャリア・パスポート、ポートフォリオ評価等)
- 「目指す学校像」や「育てたい生徒像」に基づいた、実効性の高い学校評価の推進と地域への情報発信
- 高校魅力化の取組の評価について、より効率性・実効性の高い評価システムを検討 (ICTの活用等)

5 「しまね留学」の推進

- 各高校と地元市町村等との協働による推進
- 地域における「求める生徒像」や県外生徒の入学者数の上限、受入体制等を共有
- 関係機関との連携による効果的・効率的な生徒募集
- 国外からの生徒の受入れに係る日本人学校や国際交流関係機関等との連携
- 県、市町村、高校の連携による寄宿舎等の確保・整備

県外中学校からの入学者数 (全日制)



生徒自らが選び、学び、夢を叶える 高校づくりの推進

—— 主体的な学習を促し、個性、適性、志向性に応じた多様な学びを
生徒一人一人が追求できる、魅力ある高校づくりを進める ——

1 「求める生徒像」の確立と入学者選抜方法の改善

- 各高校における「求める生徒像」の確立と中学生等への情報発信、「求める生徒像」を踏まえた選抜方法の検討（面接検査の工夫等）
- 県教育委員会における選抜方法の検討
 - 多面的・総合的に評価するための個人調査報告書等の改善
 - ふるさと教育や地域課題解決型学習等の成果の評価
 - 一般選抜における個人調査報告書等と学力検査の割合のより柔軟な設定



2 特色ある学科・コースの設置による、主体的な学びの推進

普通科高校

- 高等教育につながる基礎的・基本的な内容の確実な定着を図りながら、生徒が学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、自らの将来を主体的に描いていくことができる高校づくりを推進
- 新たな学科・コースの設置や学校設定教科・科目の開設を検討（文理融合型の新しい学科、単位制等）

専門高校

- 専門分野の基礎的・基本的な知識・技術を確実に身に付けた上で、職業人としての自己学習力や社会の中で自らのキャリア形成を計画・実行できる力等を育成する教育を推進
- 近隣高校との連携等による、新たな魅力ある取組を研究（6次産業の共同課題研究等）

総合学科高校

- 将来的に社会に貢献する基盤を培うためのキャリア教育を一層推進するとともに、生涯にわたって学習に取り組む意欲や、職業選択に必要な能力を育成
- 社会や生徒のニーズに応じた教育課程を工夫し、新たな系列の設置等を研究

定時制・通信制高校（課程）

- 生徒のニーズに対応した多様な学習スタイルを可能とする、きめ細やかな教育活動を推進
- 社会的自立を目指すキャリア教育の充実により、地域社会の一員として貢献できる人材を育成

中高一貫教育校

- 「連携型」中高一貫教育校での成果と課題等を共有し、校種間のよりよい連携の在り方を検討

3 生徒の主体性が発揮される高校づくりの推進

- 生徒一人一人が社会参画を理解・実践するために必要な知識や価値観等を学び、生徒自身がよりよい高校づくりに参画できる活動を支援（高校魅力化コンソーシアムにおける協働活動、生徒会活動、寄宿舎運営等）

4 学びのセーフティネットの構築

- 入学後の学科変更や他校への転学に柔軟に対応できる転科・転学システムを検討

5 インクルーシブ教育システムの推進

- 校内委員会の機能強化、合理的配慮に基づく教育環境の整備
- 通級による指導の充実と実施校の拡充
- 高校特別支援教育ネットワークの拡充

6 ICTを活用した授業改善の推進

- ICT環境の更なる整備や効果的な活用等を検討
- 活用スキル向上のための教員研修、ICTの特性や強みを生かした学習の充実



将来を見通した教育環境の整備

—— 将来を見通した各高校・指導の在り方の実現に
向けた環境整備を推進する ——

1 地域別の高校の在り方

都市部（松江市・出雲市）

- 望ましい学校規模は「1学年4学級以上8学級以内」
- 文理融合型の探究的な学習を行う新しい学科や単位制の導入を検討
- 高校と地域が一体となった魅力化・特色化の取組や成果を踏まえ、中学校卒業生数や入学定員に対する志願者数、入学者数の状況等を注視しながら、地域における高校・学科の在り方を検討

その他地域（松江市・出雲市を除く地域）

- 学校規模にのみこだわることなく、地元市町村及び地域の参画を得ながら、協働して高校の魅力化・特色化を推進
- 文理融合型の探究的な学習を行う新しい学科や単位制の導入を検討
- 高校と地域が一体となった魅力化・特色化の取組や成果を踏まえ、中学校卒業生数や入学定員に対する志願者数、入学者数の状況等を注視しながら、地域における高校・学科の在り方や配置を検討



松江市内普通科3校と通学区

- 松江北高校、松江南高校、松江東高校の3校それぞれの特色を具体化・明確化
- 上記の特色を2020年3月までに中学生等に周知
- 2021年度入学者選抜（2021年3月実施）より通学区を撤廃

地域外入学制限

（現在、松江北高校・松江南高校・松江東高校・出雲高校・大田高校・浜田高校・益田高校の普通科が対象）

- 大田高校・浜田高校・益田高校の普通科において、2020年度入学者選抜（2020年3月実施）より地域外入学制限を撤廃（入学定員の10%を超える受入れが可能）
- 上記3校においては、県外からの入学制限の対象からも除外（4名を超える受入れが可能）

浜田市、江津市の県立高校の方向性

- 各高校において、魅力化・特色化を推進（文理融合型の新しい学科の開設、石見部の企業や大学等と連携した専門教育の推進、定時制・通信制課程におけるきめ細やかな教育等）
- 高校と地域が一体となった魅力化・特色化の取組や成果を踏まえ、中学校卒業生数や入学定員に対する志願者数、入学者数の状況等を注視しながら、地域における高校・学科の在り方や配置を検討

2 教員の働き方改革、教員の確保と育成

教員の働き方改革

- 「教職員の働き方改革プラン」の推進による長時間勤務の是正
- 「部活動の在り方に関する方針」に基づく部活動指導員の導入等による負担軽減
- 業務アシスタントの配置拡充

教員の確保と育成

- 主幹教諭、未開設教科・科目の解消に向けた教員加配の継続・拡充
- 「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」を踏まえた、島根大学、島根県立大学等との連携による教員の養成・育成

